

平成 20 年度 石西礁湖サンゴ礁保全総合調査
重要海域詳細調査
(速報)

いであ株

1. 目的

保存区・再生区・実証区の計 13 地点に設定した永久コドラートにおけるサンゴ群集の追跡調査を行うことにより、環境の経年的変化を把握し、保存・再生要因の究明を図ることを目的とした。

2. 方法

各地点(図 1)に設定した調査線 (15m) の両側で 1m×1m コドラートを 15 回連続し、計 30 m² の被度調査を行った。

・コドラート内調査項目

- ① 水深、底質類型
- ② 生サンゴ被度、死サンゴ被度
- ③ サンゴ種別被度
- ④ 稚サンゴ属別群体数 (長径 5cm 未満群体)
- ⑤ サンゴ種別群体数 (長径 5cm 以上群体)
- ⑥ 植被・優占種
- ⑦ サンゴ以外の主な表在底生動物
- ⑧ サンゴ捕食者、白化等攪乱現象

・調査期間：2008 年 7 月～12 月

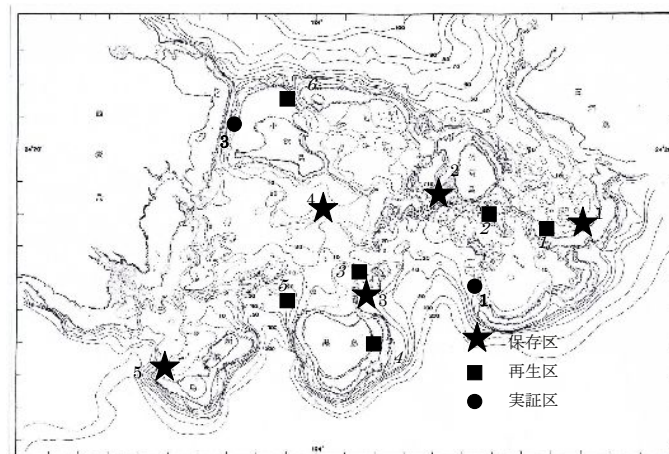


図 1 調査地点位置図

3. 結果

(1)サンゴ被度

サンゴ被度は再生区5を除いて、経年的に減少傾向にあり、2008年は特に著しい(図2)。これは2007年における高水温による白化現象の影響である。再生区5は水深が約10mで、やや深く、高水温の影響を免れたと考えられる。保存区1、再生区1、実証区3では比較的減少が軽微であるが、これらの地点は潮流がやや強いため、あまり影響を受けなかったと考えられる。

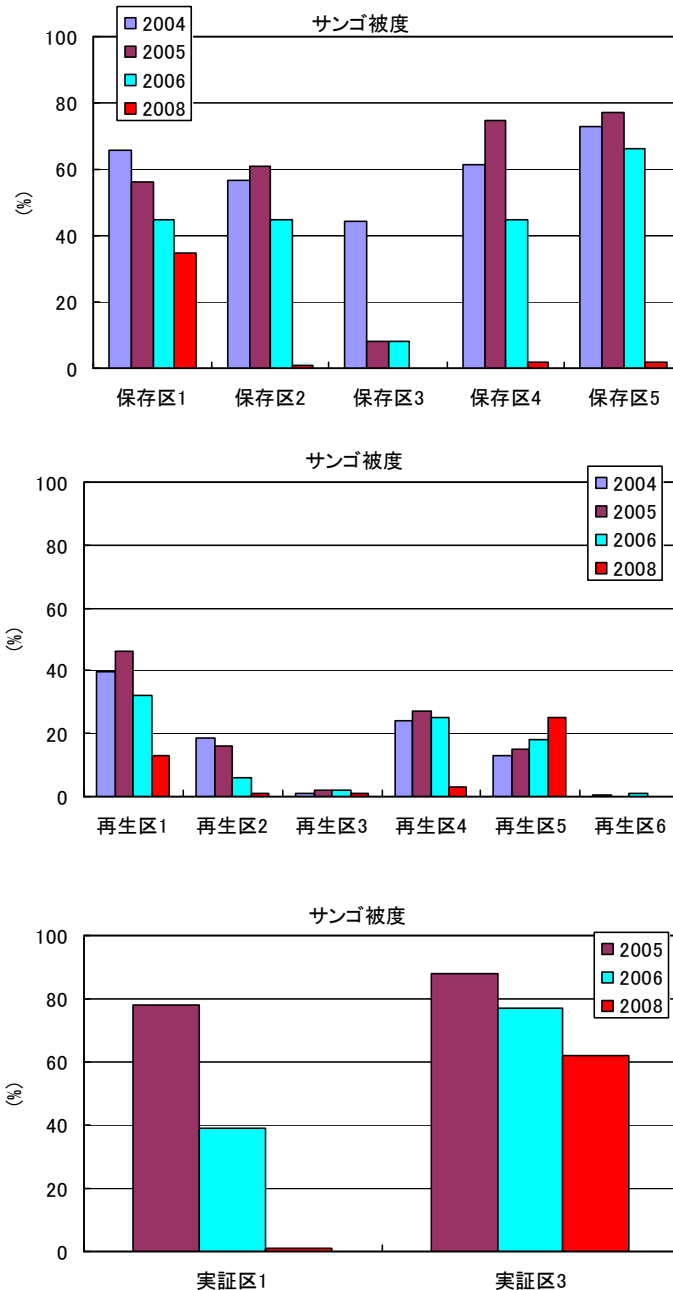


図2 サンゴ被度の経年変化

(2)サンゴ出現種数

出現種数も被度と同様に概ね減少傾向を示したが(図3)、保存区1、再生区3、ではその傾向をみせておらず、群体の加入が反映したと考えられる(図5)。

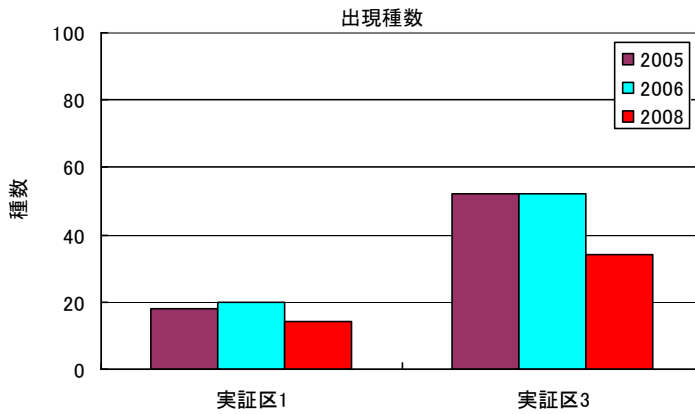
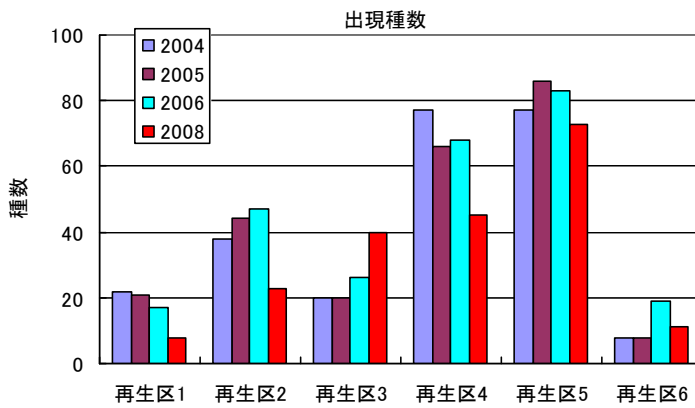
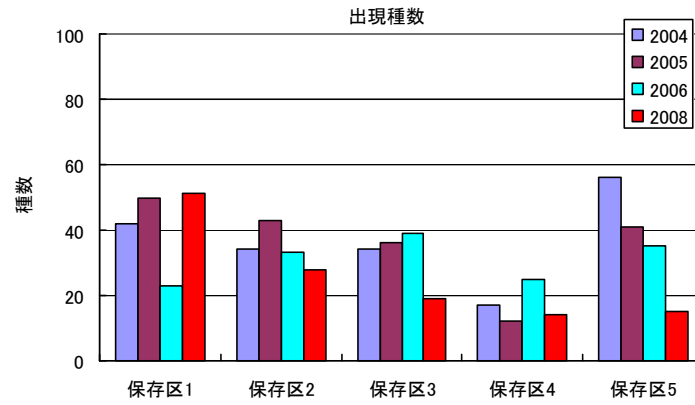


図3 サンゴ出現種数の経年変化

(3) サンゴ多様度指数

サンゴ多様度指数は一定の傾向を示さず(図4)、顕著な減少をみせたのは保存区5、再生区5であった。

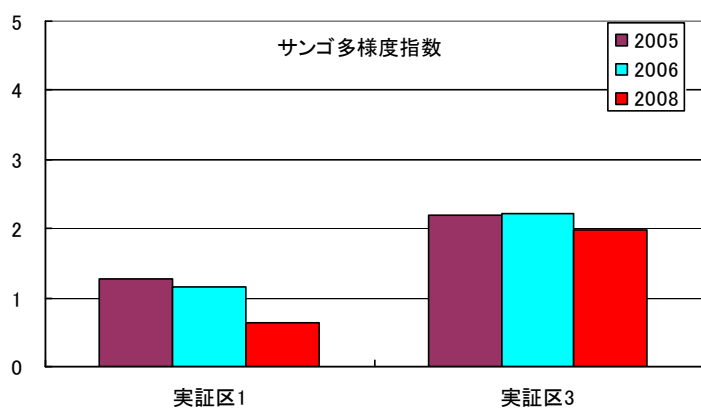
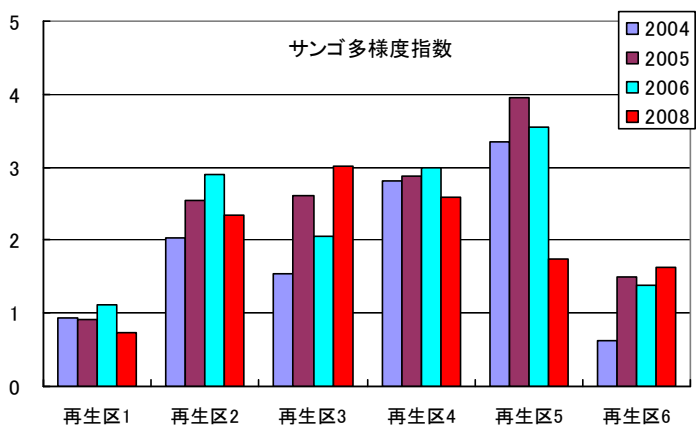
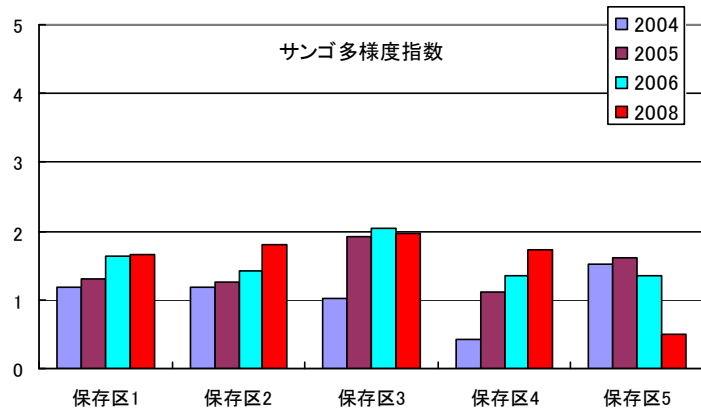


図4 サング多様度指数経年変化

(4) サング出現群体数

出現群体数は、概ね減少傾向を示した（図5）。その原因は白化による死滅である。保存区2、3、5、再生区2、4でその傾向が著しく、サング被度と似た傾向を示した。保存区1、再生区3、5では減少傾向を示さず、群体の加入があった。

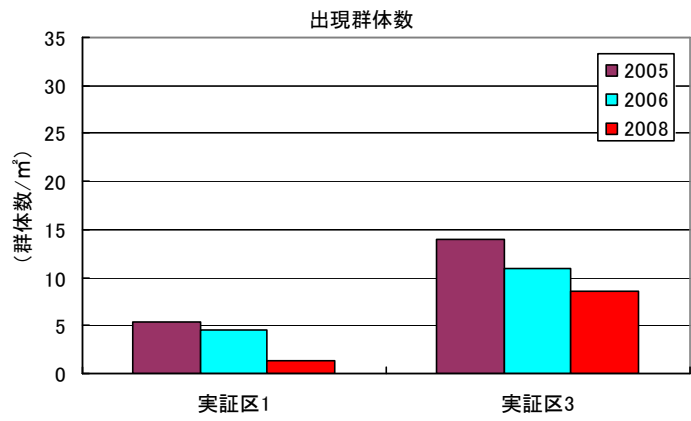
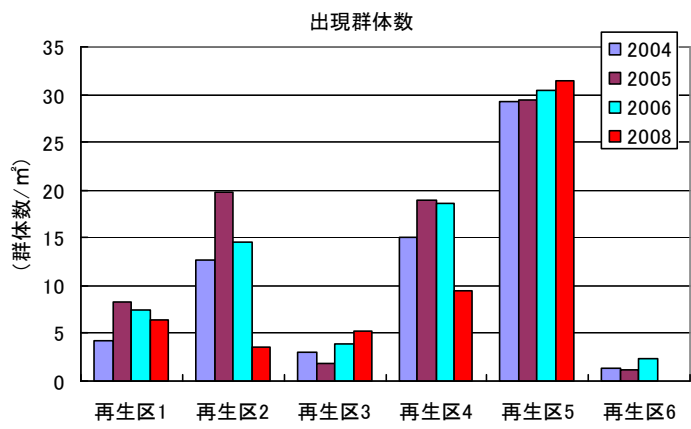
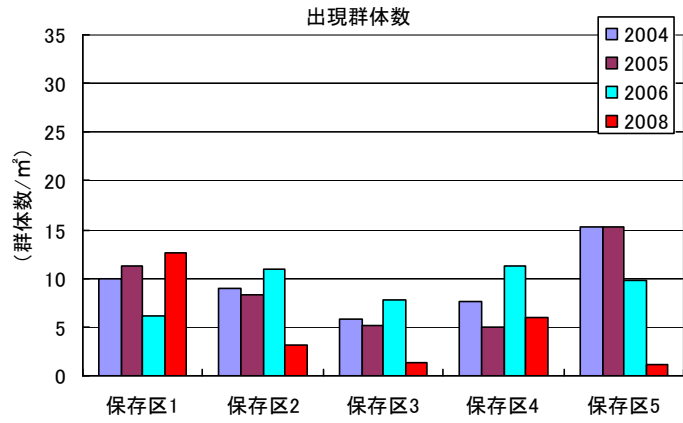


図5 サンゴ出現群体数経年変化